

碧巖錄第二則獨逸語譯出版に就て

Das zweite Kapital des Pi-yen-lu übersetzt

und erläutert von Wilhelm Gundert

平 田 高 士

斯書は碧巖錄至道無難の則を垂示、本則、著語、頌、評唱に五つて詳細に翻譯し且つその下欄に自ら、長い註釋を施してゐる。外國人で此處迄で碧巖の思想に徹底取組んだのは此の譯者が初めてであらう。Hamburg 定期刊行書 ORIENTIS EXTREMUS 九講の中の一部である。譯者 Gundert 氏は京都大學講師 Dr. Christoph Kaempf の尊師であり Tübingen 大學に神學を修め廿五歳の時 Protestant 宣教師として來日、在日中は東洋の宗教殊に禪宗に興味を覺えられた。die Geschichte der japanischen Religion/ Stuttgart Gundert Verlag 1930 の著がある。又 die Geschichte der japanischen Literatur/1935 なる著書を持つてゐる。後ドイツに歸り Hamburg 大學に日本語を講じ同大學々長の椅子に在つた。停年後は御令息の許に身を寄せ日本古典（萬葉集等）の研究に餘生を送つて居られる。最近の著書に Lyrik des Ostens がある。氏の深い漢文理解力に由り譯出は極めて原文に忠實を期してをりドイツ語としては寧ろ極めて難解である。因みにその一二を紹介してをこう。「至道無難唯嫌陳擇纒有語言是陳擇是明白」をば本文註27に “Der höchste Weg ist gar nicht schwer, nur abhold wählerischer Wahl.” Kaum aber wird ein Wort geredet, so heißt es: Das ist wählerische Wahl; das ist wolkenlose Klarheit. としてをり、又自ら「明白」「Die wolkenlose Klarheit」を本文註31に、“Die Übertragung wolkenlose Klarheit” ist wohl nicht buchstablich,

碧巖錄第二則獨逸語譯出版に就て

wird aber um der Eindrücklichkeit willen gewagt, weil in ming (明) für Buddhisten vor allem die Vorstellung des wolkenlosen Mondes, mingyüeh, anklingt. と註してゐる。此れは極めて親切な註釋であると思ふ。亦廓然を本文註3に **die offene Weite** と譯してゐる。或ひは「打成一片」を本文註39に **Klappe es zu einem Blatt zusamm!** となし、後の評唱の部「心境俱忘打成一片」を本文註 p. 34に “**Inners und Äußeres in Vergessenheit sinkt und alles., zu einem Blatt zusammenklappt**” となししてゐる。亦「不與偈論玄論妙論機論境」の玄を **Geheimnis**, 妙を **Wunderbare**, 機を **Aufnahmefähigkeit**, 境を **äußere Umstände** と一々區別して譯出してゐる。然し茲に注意す可きは如上の心境俱忘の譯出である。此の俱忘の忘は單に **in Vergessenheit sinkt** の忘却の義ではなく、心が境に成り境が心と一枚に成つた處が心境俱忘の處である。同じ様な思想言語の内容の無理解が處々に見られる。公案が單に **Problem** でない事は既に識者の良く知る所である。亦著語に於ても例へば「纔有語言是揀擇是明白」の圓悟の著語「魚行水濁鳥飛毛落」を本文註33に “**Schwimmt der Fisch, trübt sich das Wasser ; fliegt der Vogel, fallen Federn**” となし自ら本文註33に “**so stört jedes kleinste Wort das stille Geheimnis der ewigen Wahrheit**” と註してゐるが、此れは眞理の靜とか靜を破るとかを問題にしてゐるのでなく、「纔有語言云々」と本則で云つたその事が既に、錯ではないかと趙州に圓悟が迫つた所であらう。その他是に類似した誤ちが所々に見られる。譯出も極めて原文を生かして譯されてをり、殊に著語等に於てもその本筋を外らさず、ドイツ人らしい正確さを以て譯されてゐるのであるが、今一つ言句の妙密が譯者に理解されてゐない。詳細は又稿を改める事にしよう。

一
三